

秋山気象

2009年9月8日 勉強会

担当：原田、春名

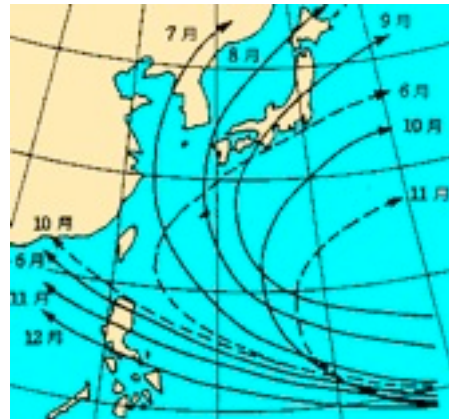
秋の山は紅葉など楽しみが増える一方、日も短くなり、台風の接近や雨も多く、天気の変化も大きいです。楽しい山行のためにいくつか特徴などを挙げていきたいと思います。

● 台風

日本にやってくる台風は最盛期から衰弱期のものが多く、また、台風の寿命は平均で5.3日程度であるためこの日数や台風の経路が入山などの参考になります。

普通台風は太平洋高気圧から吹き出す風に流されて移動し、太平洋高気圧の外側のへりを通して日本列島に接近してきます。さらに9月以降に発生する台風は秋雨前線を活発化して大雨を降らせることもあるので注意が必要です。

南西諸島付近にある転向点に近づくと台風の色度はかなり落ちますが、通過するときゆうに進行方向を変えて速度を増し、日本列島に上陸して衰弱したり、速い速度で去っていくことが多いです。



多くの特徴があるし、台風情報は豊富なので参考になりますが、予想外の動きをするものもあるし、なにより山で現れる影響は平野部よりも早い!

模や前線の有無で差はありますが、太平洋側の山岳では台風が北緯25度を超えると注意、北緯30度を超えたら危険とみて対策をとるのがよいそうです。

対策

入山しない、暴風域に入らないうちに下山、など

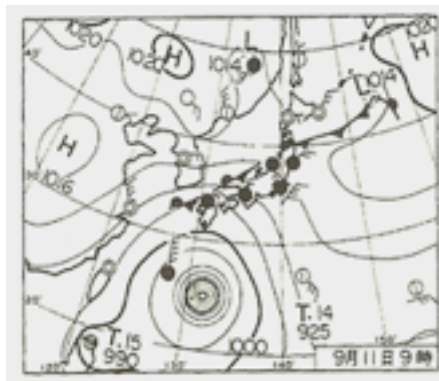
● 雨

梅雨と同様に前線が日本付近で停滞しやすく、秋雨前線とよばれます。強い雨にはあまりありませんが、しとしと降り続き、この初秋の長雨は（ ）とよばれ、普通は9月中旬ごろに現れます。

このころはまだいいですが、10月にもなると寒くなって時には吹雪や初雪もみられ、疲労凍死の危険も出てきます。また、前線が弱くても台風が近づいてくればその前線は大雨を降らすことも。

9月は快晴日数が1日くらいしかなかったりしますが、10月上旬には4、5日の周期で天気が変わるようになり、快晴日数も増えてきます。

素晴らしい登山日和となりますが、好天は悪天の前兆！空き晴れは長続きしません...



対策

移動してくる高気圧が北日本方面を覆うようになってきたら秋雨前線が発生し、秋山は長雨になるものと思う。

● 気温

日中は夏かのごとく暖かいかと思えば夜はかなり冷え込むなど、天気とともに気温も大きく変化しやすいです。

秋山の気温は、9月半ばには北アや大雪山系、9月後半には2000mに満たない山でも0度を割りだします。そして、春のように4、5日の周期で気温は上下を繰り返し、9月半ばを過ぎると一気に下がるようになります。

晩秋の11月にもなると1000m級の山でも気温は0度を割り出して、天気が悪いと2000m級以上の山では暴風雪、低くてもみぞれや冷雨になって遭難の危険も。

ちなみに100m標高が上がれば気温は約()度下がるので、これも頭に入れておくといいかもしれません。

実際に北アルプスの白馬岳では06年の10月7日に遭難があり、7人遭難で4人凍死ということもありました。晩秋はとくに遭難が増えるそうなのでより注意する必要があります。

対策

防寒をしっかりする。秋は風が強いことも多いし、天気が悪化すれば冬山同然にも...

雨で体が濡れた上に風に当り続ければダメージは大きいので、雨具がゴアテックスだからといって過信せず、フリースといった防寒着や手袋、下着などでも防寒対策をとることが大切になってきます。

- おまけ

いくつか秋の天気に関わることわざ、観天望気の例を。

- ・ 秋の夜の北風は晴れ
- ・ 秋空があまりに高く晴れて冴えてくると翌日か翌々日は雨
(この2つは北風が吹くのは移動性高気圧が接近してきたときだったりするので比較的
 当りやすいとか)
- ・ うろこ雲が出ると雨
- ・ 秋の西風は二日は吹かない
- ・ 秋に西北の山に黒雲が起こるときは必ず雨
- ・ 女(男?)心と秋の空

- 参考文献など

- ・ 2008年度勉強会資料
- ・ 登山者のための最新気象学
- ・ 気象庁ホームページ
- ・ <http://blog.yama-ski.com/?month=200610>